

言語能力向上拠点校「実践報告会」12/22

子どもが自ら課題解決に向け、活用できるように作られる「学習の手引き」。基本的・基本的な読みの力を育てるために、東京都練馬区立関町北小学校(大野泰弘校長、児童582人)では、読みのポイントを示した「読み取りのねど」を作成した。東京都東久留米市立第三小学校(稲垣達也校長、児童530人)では、情報活用力を身に付ける「三小ノート」を作成。子どもたちの学習に対する意欲的な姿が多く見られている。

「三小ノート」は、稲垣校長。しかし「学校の実態として使いつらいため、参考にならなから実際に使えるものを作成した」と話す。

教師用指導書も作成

「三小ノート」は、国語や社会、総合的な学習の時間といった各教科などに関連性を踏まえた構成になっている。新聞作りやインタビュー、調べ学習は教科書で扱われている。学校図書館を軸に教科間のつながりを持たせ、教師にとって使いやすいノートになったとしている。

「三小ノート」は、稲垣校長。しかし「学校の実態として使いつらいため、参考にならなから実際に使えるものを作成した」と話す。

「三小ノート」は、国語や社会、総合的な学習の時間といった各教科などに関連性を踏まえた構成になっている。新聞作りやインタビュー、調べ学習は教科書で扱われている。学校図書館を軸に教科間のつながりを持たせ、教師にとって使いやすいノートになったとしている。

学校図書館を使いこなす

東京都東久留米市立第三小学校

「言語活動の充実」を傍らに学校図書館で求められる中、同校が取り組むのは、学校図書館を中心とした情報活用力の育成。学力向上にとって大切な要素として、学習の積み重ねができるように配慮して作られたのが「三小ノート」(学校図書館活用ワーク)だ。授業時間は45分と限られる。中休みや昼休みなどを活用し、調べ学習の続きや広がりをも求め「三小ノート」

学校図書館の基本的な利用の仕方や約束事も載っている。「こうしな内容を取った本は市



昨年12月22日に行われた実践報告会。そこで公開された6年国語「新聞スク」

て使いやすい点など、図書館司書のコメントと合わせて掲載している。良かった点だけでなく留意点などを踏まえ、次に授業を行う教師にとって参考になるようにファイリングしている。

第三小 042・471・0104

